

令和3年度第1回伊勢市市民公益活動促進委員会 議事録

日 時：令和3年8月23日（月）13時30分～15時30分

場 所：伊勢市役所 東館5-1会議室（各委員オンラインでの参加）

出席委員

委員長 池山 敦 氏（皇学館大学 教育開発センター准教授）

副委員長 藤岡 喜美子 氏（公益社団法人 日本サードセクター経営者協会
東海支部長）

秋山 則子 氏（NPO法人三重みなみ子どもネットワーク 理事長）

川北 輝 氏（津市市民活動センター センター長
NPO法人津市NPOサポートセンター 理事長）

尾西 学（伊勢市環境生活部 市民交流課 主幹兼地域自治推
進係長）

【いせ市民活動センター指定管理者】

特定非営利活動法人 いせコンビニネット

増川 尚男（事務局長）

西川 恒夫（いせ市民活動センター長）

浦田 宗昭（いせ市民活動センター企画部長）

【事務局】

木村 扶美夫（市民交流課 課長）

上村 静香（市民交流課 市民交流係長）

鈴木 健太（市民交流課 市民交流係 主事）

1. 委員長、副委員長の選任について

- ・選任にあたり、事務局より提案を行い、出席委員全員の賛成により次のとおり決定した。

委員長 皇学館大学 教育開発センター准教授 池山 敦 氏

副委員長 公益社団法人 日本サードセクター経営者協会 東海支部長
藤岡 喜美子 氏

2. 協議事項

(1) 令和2年度のいせ市民活動センターの管理運営状況について

- ・別紙資料に基づき指定管理者より説明。

【意見交換】

※ (委) = 委員 (指) = 指定管理者

(委) 登録団体の年齢層は変わってきているか。特に新しく登録した団体の年齢層はどうか。

(指) 新たに5団体の新規登録があった。高齢層の登録が多いが、中には30・40代を中心として構成された団体もあり、印象に残っている。

(委) 全体として若返っているというよりも、一部若い方で構成された団体が増えた認識でよろしいか。

(指) はい。

(委) 事業の組み立ては登録団体を主として考えているのか、広い視点で組み立てているのか。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた上で考えた事業はあるか。

(指) 登録団体を中心とした事業の組み立てが多いが、市民活動フェスティバルやチラシコンテストなど、一般の方を対象とした事業も組み入れている。

コロナ禍においても登録団体が活動できるように、非接触型の体温計の貸し出しやアルコール消毒液の無償提供などをセンター事業として実施した。今年度も同事業を考えているが、世間も各団体もコロナ禍に配慮した活動が定着してきていることから、今一度検討を行う。また、昨年度から進めているがWeb会議の講習会も要望があれば継続していく。

(指) 全体的な事業の話となるが、昨今、SDGsの推進により企業の意識が変化している。まだ、構想段階ではあるが企業に対し何らかのアプローチを考えている。但し、企業との連携はいせ市民活動センターだけが行うものではなく三重県全体で行っていくものとなることから、三重県の動向を伺いながら取り組んでいく。

(委) 要望があればWeb会議の講習会を行うとのことだが、要望はないのか。

内容的には無くても取り組んでいった方がよいのではないか。

(指) 個別に講習を依頼されることはあるが、団体全体を対象とした講習は要望がない状況。

(委) 個々に要望がある団体だけ行うのではなく、広く周知し行っていてもよい内容だと思う。Web 会議はこれからも推進されていくと思われるので、また検討していくとよい。

(委) 3点あります。

1点目にまちづくり協議会との連携事業の進捗はいかがか。

2点目にコロナ禍により、かえってよくなったこと、気付きはあったか。

3点目にコロナ禍により、普段繋がりがなかった方からの問い合わせ等があったか。

(指) まちづくり協議会との連携としてチラシコンテストに取り組んでいたが、昨年度はまちづくり協議会もコロナ禍により活動が行えていなかったこともあり、中止とした。結果的に、まちづくり協議会との連携は行えていない状況。

コロナ禍による気付きは、Web 会議が推進されたことと、団体も Web 会議に取り組むために活動されていたこと。団体には関係はないが、健康管理に気を付ける方が増えたのも印象に残っている。

(委) オンラインの推進は引き続き行ってもらいたい。興味のある団体だけではなく団体全体の底上げを図るのがよい。

なんでも相談件数が昨年度よりも減少したが、理由は把握しているか。

市民活動フェスティバルの報告の際に、予想外に評判がよかったとの報告であったが、予想外とはどのような意味か。

(指) オンラインの推進については、団体の底上げを意識して取り組んでいく。

なんでも相談については、コロナ禍により来所が減ったというのが理由。

市民活動フェスティバルについては、毎年実施している内容と比べると規模が小さくあまり効果が見込めないと思っていたが、参加団体間での交流が図れていたと知り、想定以上に効果のある活動となった。

以上